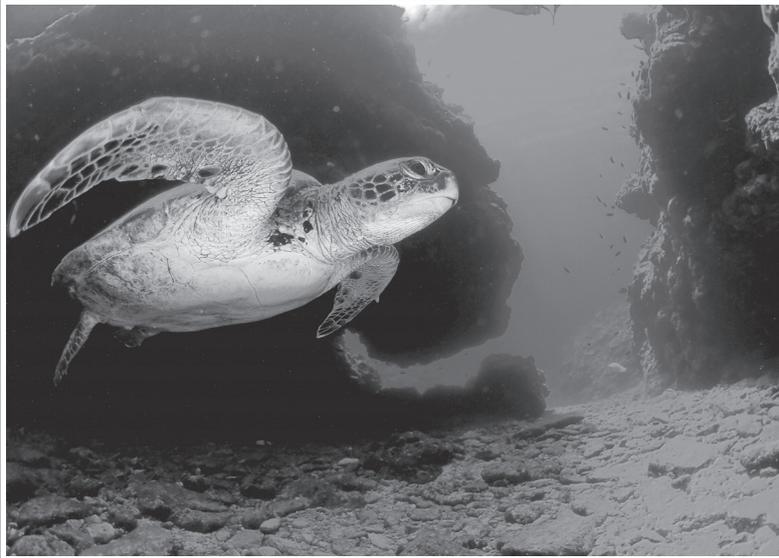


会報表紙写真「慶良間の海で」 (平成21年7月号掲載)を表彰!!



夏の暑い日は慶良間の海底でひと時を過ごす生き返ります。
 近年はダイビング人口も県内では減っているとのことですが、楽しく講習を受けて、ライセンスを取ってみては如何でしょうか！
 美しい沖縄の珊瑚礁で水中カメラを携帯して海底散歩も楽しいものです。
 暑くなくて気分もいいです。真夏のゴルフに比べると・・・
 海亀はゆったりと泳ぎますので、被写体としては最適です。特に慶良間のカメさんはシャッター慣れ？しているのか全く逃げません。
 ついつい追っかけていき、ついでに竜宮城まで私を連れてって行って欲しいと思いながらシャッターを切りました。

西町クリニック 真栄田 篤彦

講評

写真家 新報カルチャーセンター講師 新嘉喜 祐司
 空間の広がりを感じられる写真で、写真の構図としても、全体的にまとまった写真である。
 亀の、のびのびして、ゆったりとした動きが伝わってくる。

コメント

広報担当理事 當銘正彦
 2009年、沖縄県医師会報の表紙を飾っていた12枚の写真がラインアップしました。改めて、会員諸氏の写真技術の高さに敬服しております。今では光学機器と言うよりは、すっかりIT機器へと様変わりした写真にまつわる技術領域となり、写真の有する表現性が格段に庶民化して来たとはいえ、撮影者の意志と被写体の主張が織りなすアートは、応募いただいている写真を拝見すると、並々ならぬシャッターチャンスへの思いが観えます。会報誌の顔である表紙写真への応募に心か

らの感謝を申し上げ、これからも会員の皆様の更なるご協力をお願いいたします。

さて栄えある2009年の金賞は、西町クリニック・真栄田篤彦先生の「慶良間の海で（7月号）」に決定いたしました。おめでとうございます。次点は石川眼科医院・石川秀夫先生の「ハナミズキ（4月号）」と知念耳鼻咽喉科・知念信夫先生の「アメリカンビレッジ（12月号）」となりました。何れも甲乙付けがたい秀作ではありますが、悠々と泳ぐ亀の行く手に竜宮城の入り口をも連想する写真の構成は、実り豊かな明日への希望を願うみんなの夢を運びます。ダイビングの手間までかけた真栄田先生の力作に、脱帽です。

ところで金賞の選考に当たり、従来はプロ写真家の新嘉喜祐司垣先生に一任していたのですが、それでは余りに他力本願過ぎると反省し、今回からは広報委員会も加わって、プロの新嘉喜先生との協同で選考したことを付言しておきます。